

キク白さび病の感染リスクに応じた 薬剤散布の考え方

福島県農業総合センター 生産環境部 作物保護科

1 部門名

花き－キク－病害虫

2 担当者名

鎌田 拓郎、五十嵐 秀樹、大竹 裕規、金丸 雄太郎

3 要旨

キク白さび病はキク類に発生する重要病害であり、薬剤による防除が有効であるが、生産現場では薬剤散布を行っても発病を抑えられない場合がある。そこで、気象条件に応じた薬剤散布による防除結果を解析したところ、感染リスクが高くなる条件を明らかにしたため、感染リスクを評価できるフローチャートを作成した。

- (1) キク白さび病の感染には日積算降水量、日最低気温、日平均風速が関係していると仮定して薬剤散布を行った結果、慣行防除と比較して、発病葉率を低くすることができた（図1）。
- (2) 結露による葉の濡れが感染に影響していたことから、降水の有無、最低気温、葉の濡れの3つの要素からなる感染リスクのフローチャートを作成した（図2）。
- (3) フローチャートにおいて、リスクが中及び大となるときは薬剤散布を行うことを推奨する。
- (4) 感染リスクが中～大の日が連続する場合、降雨の合間を見て薬剤散布を検討する。

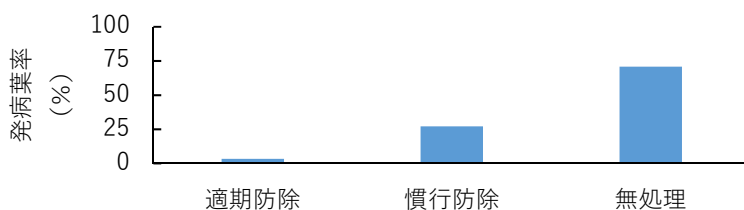


図1 防除方法の違いによるキク白さび病の発病葉率（7月22日調査）
供試品種：花の舞（1区10株3連の平均値）。適期防除：2日後の気象条件（最低気温、積算降水量、平均風速）から感染リスクを判断し、リスクが高い場合前日に薬剤散布（計19回散布）。
慣行防除：JAふくしま未来福島地区菊用病害虫防除暦に基づき薬剤散布（計14回散布）。

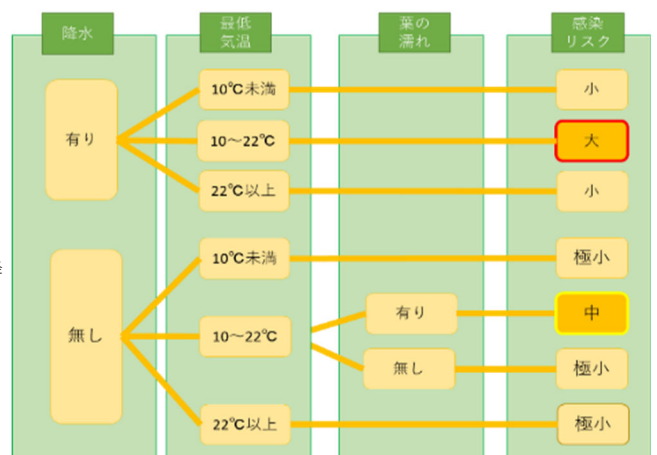


図2 感染リスクのフローチャート

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30～令和2年度
- (2) 研究課題名 花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 内田勉, キク白さび病の伝染機構と防除に関する研究, 山梨県農業試験場研究報告(特別号), 1983.